

ウッジ工科大学 (ポーランド)

日本語講座概要

ウッジ工科大学

日本語教師

川瀬佐恵

1. 機関概要

所属：ウッジ工科大学 国際交流センター

位置づけ：単位認定外の授業

開講：1984年10月～

講師：1984年～1996年まで現地採用日本人教師（一名）

1996年より青年海外協力隊の日本語教師が二年ごとに一名派遣される。

2. 沿革

既に10年以上の歴史を持つウッジ工科大学における日本語講座だが、未だ選択科目ではない講座開催という形をとっている。工科大学という理系大学での日本語講座開催は稀なケースといえるが、学習者の動機やニーズが様々であり、単位認定の語学授業ではないため、学生の定着率が極端に低い。単位認定科目にする要望は学生側からは強いが、大学側では工科大学の専門性と日本語が将来的にマッチする機会が少ないと見ており、大学での正式な単位認定科目として日本語は必然性がないと考えている。尚、昨年1999年秋学期より、日本語の授業の教室を貸与している国際工学部の学生のみ、希望者へ外国語選択科目としての単位認定が行われるようになった。

3. 学習状況（2000年6月・冬学期終了時）

【レベル】

①初級Ⅰ（一年目）	学生数（35名）
②初級Ⅱ（二年目）	学生数（25名）
③初級Ⅲ（三年目）	学生数（4名）
④中級（学習歴5～8年までの学習者対象）	学生数（4名）

【学習時間】

週2回（一回90分）

年間約50回強の授業が行われる。

【使用教科書】

1996年までの前任者が『しんにほんごのきそ1・2』を使用していたため、現在の初級Ⅲでは継続して『みんなの日本語1』の第18課までを終了している。中級では『しんにほんごのきそ1・2』が終了しているため、自作または市販教材を用いて読解・会話・文法・聴解の問題を学習している。初級Ⅰ・Ⅱでは、基本シラバスを『みんなの日本語1』を参考にしているが、学習者のニーズにあわせた独自のシラバスで文型提示をしている。

4. 学習者の動機とニーズ

一年生に対する初回のアンケート結果によると、一番大きい動機にあげられるのは、武道・日本のアニメに対する興味である。また、その他には明確な動機がなく、珍しい言語で単なる興味本位というのを動機としてあげる学生も多い。動機からして、ニーズも薄く、具体的なものがあまりない。将来、日本への留学を考えている学生もときどきいるが、まだまだ少数である。動機とニーズがあまりないのが原因と思われるが、開講時と年度末講座終了時では学生の定着度が低い。ここ2年間の状況では、初級Ⅰ開講時100名以上の学生が集まるが、一年目終了時には30～40名の学生しか残らないという現状が続いている。どこで学習者の動機づけを促し、長期的な日本語学習へつなげられるかは、ここウッジ工科大学の日本語講座における大きな課題であろう。

5. 活動の状況

- ①1999年11月、日本大使館主催による日本語弁論大会において、半数以上が日本語学科の学生の中でウッジ工科大学より中級クラス2名が特別賞を受賞。
- ②2000年4月より中級クラスの学生一名が、文部省奨学金に合格し、横浜国立大学へ修士留学。

6. 今後の課題

- ①日本語専門の現地人教師陣の不足
- ②十分な教室の確保
- ③大学側の講座開催への積極的介入
- ④外国語選択課目としての単位認定
- ⑤日本への留学（理工系専門）のバックアップ